

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	国語総合	5	1年1組～14組

使用教科書	副教材
東京書籍 『精選国語総合』	京都書房 『新修 古典文法』・京都書房 『新修 古典文法ドリル編』 尚文出版『新明説漢文』・『新明説漢文基本練習ノート』・『古文単語301』・『核心漢字2500語彙1000』

1. 学習の目標

<p>1 国語で適切に表現し理解する能力を育成するとともに、伝え合う力を高める。</p> <p>2 思考力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨く。</p> <p>3 言語文化に対する関心を深めるために、現代の文章や古典を読み、読書に親しむ態度を身に付ける。</p> <p>4 高校国語の導入学年として、基礎・基本の反復、習熟を重視する。</p>

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 話すこと・聞くこと	3. 書くこと	4. 読むこと	5. 知識・理解
国語や言語文化に対する関心を深め、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとしているか。	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりしているか。	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章を書いているか。	自分の考えを深め、発展させ、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりしているか。	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けているか。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	5	随筆「届く言葉」 古文入門	(動画配信) 古文の基本・動詞の活用・辞書の使い方を学ぶ	定期試験の成績 小テストの成績 授業中の態度・発言 家庭学習の取り組み (予習・復習・提出物)
	6	ガイダンス・ 評論「今ここにある 無数の未知」	国語の学習目標、学習法、ノートの取り方など 評論文読解の基本と現代的なテーマについて学ぶ。	
	7	「児のそら寝」	説話のおもしろさを読み取る。	
2	9	小説「羅生門」 古文「徒然草」 漢文入門「矛盾」	小説の読解の基本を学ぶ。 古文の形容詞・形容動詞・助動詞・助詞(係り結び等)を学ぶ。	
	10	評論「欲望と科学」	漢文の基本・訓読を学ぶ。	
	11	古文「伊勢物語」	評論文の読解を通じ、現代社会への理解を深める。	
	12	漢文「寓話」	活用語を復習するとともに、基本的な敬語を学ぶ。 漢文の句法(否定・疑問・限定など)を学ぶ。	
3	1	評論「ものと記号」 小説「城の崎にて」	文章の構成や展開に注意して評論を読解する。 登場人物の心情を、話の展開に注意して読み取る。	
	2	古文「和歌」	和歌の修辞を学び、鑑賞する。	
	3	漢文「史話」	漢文の句法を学ぶ。史話の登場人物の心情を読み取る。 年間を通じ、以下のことを行う。 *朝のHRも利用し、小テスト等を行い、受験レベルの漢字・語彙力等の養成に力を入れる。 *朝のHRなども利用し、読書習慣の確立をうながす。 *実力養成・実力テスト対策として、問題演習を行う。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地理歴史・公民	世界史A	2	高校1年全クラス

使用教科書	副教材
世界史A (東京書籍)	第一学習社 グローバルワイド最新世界史図表 三訂版

1. 学習の目標

近現代の世界の歴史の大きな枠組みと流れを、わが国の歴史と関連付けながら理解し、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって歴史的思考力を培い、国際社会に貢献できる日本人としての自覚と資質を養う。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
世界の様々な地域の文化や習慣を理解し、世界における日本人の地位に相応しい国際感覚を学ぶ。	各国の歴史が、世界の様々な地域に影響を与え、遠く、アジア・日本とも繋がっていることを多角的に考察する。	写真図版や歴史地図を通して現在に残る世界遺産や、失われた過去の遺産を学び、今日の社会に残る文化の起源を実際の資料から理解する。	世界の歴史を理解する上で必要な知識を身につけ、その関連性を理解する。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第3章 大西洋世界の変容とその波及	・17～18世紀のヨーロッパ諸国の活発な経済活動と植民地争奪戦争を重商主義と関連付けて考察し、資本主義体制の確立と社会の変容について理解を深める。	授業態度・課題、定期試験等を総合的に評価する。
	5		・アメリカ独立革命とフランス革命が経済的・思想的に影響しあっており、「独立宣言」や「人権宣言」が近代市民社会の形成に重要な役割を負っていたことを認識する。	
	6		・ナポレオンの出現により各国のナショナリズムが台頭したことが、後のウィーン体制における保守的な体制が生まれる背景となった点を理解する。	
2	7	第4章 産業化社会の拡大と成熟	・産業革命の背景と影響について、世界経済的視野から考察する。また、新たに発生した諸問題にも注目する。 (フランス革命までは、映像配信による授業)	授業態度・課題、定期試験等を総合的に評価する。
	9		・旧体制下における封建的な国家観が崩壊し、今日の国民国家が形成されたことを理解する。	
	10		・国民国家の形成が、ヨーロッパ諸国の新しい勢力図を形成したことを理解する。	
3	11	第5章 アジア諸国の変貌と日本	・欧米のアジア進出が、以後の同地域の植民地状態を形成した事、日本の近代化が周辺アジア各国に与えた影響を理解する。	授業態度・課題、定期試験等を総合的に評価する。
	12		・欧米諸国のアジア進出が、以後の同地域の植民地状態を形成したことと、日本の近代化が周辺のアジア各国に与えた影響を理解する。	
	1		・欧米列強による世界秩序形成の様相について理解する。	
3	2	第6章 帝国と民族の時代	・19世紀以降のヨーロッパ各国の帝国主義的植民地政策が、弱体化したオスマン帝国支配下のバルカン半島で衝突する背景を理解する。	授業態度・課題、定期試験等を総合的に評価する。
	2		・第一次世界大戦の状況を学ぶことで、戦争が多方面に与える影響を理解し、またロシア革命の世界史的意義や、ヴェルサイユ・ワシントン両体制における国際協調の成果と限界について考察する。	
	3		・諸戦における枢軸国軍の勢力拡大と占領地における抵抗、連合軍による反撃と終戦にいたる経緯について理解する。	
3	3	第7章 二つの世界大戦の時代	・第二次大戦後の東西冷戦の構造と、現代の多極化時代にいたる経緯を理解し、核の脅威と平和の意義について考察する。	授業態度・課題、定期試験等を総合的に評価する。
	3		・第二次大戦後の東西冷戦の構造と、現代の多極化時代にいたる経緯を理解し、核の脅威と平和の意義について考察する。	
	3		・第二次大戦後の東西冷戦の構造と、現代の多極化時代にいたる経緯を理解し、核の脅威と平和の意義について考察する。	
3	3	第8章 冷戦と民族独立の時代	・第二次大戦後の東西冷戦の構造と、現代の多極化時代にいたる経緯を理解し、核の脅威と平和の意義について考察する。	授業態度・課題、定期試験等を総合的に評価する。
	3		・第二次大戦後の東西冷戦の構造と、現代の多極化時代にいたる経緯を理解し、核の脅威と平和の意義について考察する。	
	3		・第二次大戦後の東西冷戦の構造と、現代の多極化時代にいたる経緯を理解し、核の脅威と平和の意義について考察する。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地理歴史・公民科	日本史A	2	1年1組～14組

使用教科書	副教材
『日本史A』(山川出版社)	『最新日本史図表』(第一学習社)

1. 学習の目標

我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察し、我が国の文化を伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚を国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。近現代の日本史の展開を、世界史的視野に立ち、多くの要素を踏まえ、幅広い見方で大きく考える。また、歴史の展開の中で、日本文化の特色やその伝統の形成について認識を深める。その際、歴史の過程を実証的に考察することによって歴史の見方・考え方を身につけ、歴史的思考力を育成する。そして、民主的・平和的な国家・社会を形成する自覚と国際社会に主体的に対応できる資質を養うことをねらいとする。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察する。国際社会の変化を踏まえ、公正に判断できる。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する。また、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第1章 開国と明治維新	<ul style="list-style-type: none"> 開国から明治維新にいたるまでの過程について、国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して理解する。 幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家機構の芽生えから幕府の滅亡にいたるまでの経過を社会・経済の変化と関連づけて考える。 	動画を視聴した上で、授業ノートを提出
	5		<ul style="list-style-type: none"> 開国から明治維新にいたるまでの過程について、国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して理解する。 幕末における統一国家機構の芽生えから幕府の滅亡にいたるまでの経過を社会・経済の変化と関連づけて考察する。 	
	6	第2章 立憲国家の成立	<ul style="list-style-type: none"> 欧米の文化・思想の影響により日本を欧米諸国と同等の位置へ引き上げようとする一連の近代化政策がとられ、それが日本人の近代への覚醒をもたらしたことを理解する。 明治新政府の諸制度の改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を理解する。 欧米諸国と対等の地位に立つために国家的課題であった不平等条約の改正を行い、東アジアへの進出により欧米列強への仲間入りを目指していった経過について考察する。 伝統的な文化の上に欧米文化を取り入れた国民的な性格を持って成立した近代文化の特色について理解する。 政府の強力な中央集権体制の志向の中、自由民権運動の開始から立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成される過程を考察する。 立憲体制成立後から第一次世界大戦にいたるまでの国内政治の動きを、政党と藩閥の抗争などの視点から理解する。 日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して考察する。 	
	7			授業態度 授業ノート提出 小テスト 定期試験の成績

2	9	第3章 第一次世界大戦と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展にも着目して考察する。 ・近代産業の発展に伴う社会問題・労働問題の発生や、国民生活の向上について考察する。 ・伝統的な文化の上に欧米文化を取り入れた国民的な性格を持って成立した近代文化の特色を理解する。 ・日露戦争の勝利による欧米列強の仲間入りとその後の植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。 	授業態度 授業ノート提出 小テスト 定期試験の成績
	10		<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦前後の政治動向及び対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえ考察する。 ・第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関連や政党内閣の成立などに関連させて理解する。 ・民主主義的風潮による社会運動の動向を理解し、普選運動など政党政治の発展から政党内閣成立までの意義を理解する。 ・労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の成立に着目し、都市化や国民生活の変化を踏まえて、文化の特色を理解する。 	
	11	第4章 昭和の恐慌と満州事変	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内外の状況について、経済対策はもとより政治・経済の動揺にも着目して理解する。 ・社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。 ・日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出の拡大による政党内閣の崩壊過程も踏まえて考察する。 ・恐慌から脱出し、ナショナリズムが高揚する日本において、二・二六事件以降ますます軍部が台頭する過程を考察する。 ・日中戦争から太平洋戦争に至る過程について国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的国家体制の発展を考察する。 ・第二次世界大戦について、国家観の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前的惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。 	
3	1	第5章 第二次世界大戦と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を理解する。 ・戦後政治の集大成となる日本国憲法の意義を理解する。 ・東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が集結し、日本が独立した意義を考える。 	授業態度 授業ノート提出 小テスト 定期試験の成績
	2	第6章 占領下の日本	<ul style="list-style-type: none"> ・連合国による日本の占領が集結したこと、その後の日米関係の継続について様々な国の立場から考察する。 ・独立後の日本国内政治について、55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。 ・冷戦構造に雪解けの状況が生まれる中、日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・ソ連・中華人民共和国・大韓民国などとの関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する。 	
		第7章 経済繁栄と保守長期政権 第8章 現代の世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などに着目して考察する。 ・消費革命による社会の変貌と経済成長がもたらしたひずみである社会問題について考察する。 ・高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、国際情勢の変化を踏まえて行った国内の政治対策について考察する。 	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地理歴史・公民	地理A	2	高1年1, 6, 9～11組

使用教科書	副教材
第一学習社「地理A～世界に目を向け地域を学ぶ」 帝国書院「新詳高等地図」	帝国書院「世界の諸地域NOW2020」

1. 学習の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・系統的内容について、世界の様々な地域の特徴や共通点を結びつけて学習する。 ・自然環境について学習し、世界各地と日本における自然環境の差異や、それに伴う生活の違いを理解する。 ・産業に関する内容を学習することにより、世界の様々な地域の特徴や共通点を理解する。 ・グローバル化する現代世界の地理的認識を養い、地理的な見方・考え方を養う。
--

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
世界の様々な地域の特徴を学び、現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究する。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、地域性をふまえて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化について考察する。	地図や統計など地域に関する諸資料を扱い、地理的事象を追究する技能（読解力・表現方法）を身につける。	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や、その追究の方法を理解し、知識を身につける。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	【大地形】 ・地球のすがた ・大陸移動説 ・プレートテクトニクス ・地体構造 【小地形】 ・河川がつくる地形 ・海岸地形 ・氷河地形 ・乾燥地形 ・カルスト地形 等	・世界全体から大規模な地形をみると、そこに類似性や規則性がみえてくることを理解する。 ・世界の大地形の分布、火山・地震などの活動地域の分布などには特徴があること、人の生活との関わりについて災害や防災、減災の視点を入れながら整理する。 ※一部、動画配信で対応	定期試験 (期末) 授業態度 (意欲・態度・発言等) ノート提出 などから、総合的に評価する。
	5		・河川を上流部から河口部までたどりながら、地形の分布と人間生活との関連を整理する。 ・海岸地形やその他の特殊な地形と人間生活との関連について考え、地域開発のあり方や、環境問題との関連を理解する。 ※一部、動画配信で対応	
	6		・世界気候が、緯度・隔海度・高度・風・海流などによって影響を受けていることを理解する。 ・大気の大循環と緯度による降雨の違いの関係を理解し、それが砂漠や前線の分布に関わることを知る。 ・世界の気候区分の一例として、ケッペンが植生を指標に気温・降水量などを用いて区分した13の気候区について、分布の特徴とその成因について整理する。 ・それぞれの気候条件に対する植生・土壌について整理し、地球上の人々の生活は多様だが、その生活や各地の気候条件に対応していることを理解する。	
2	7		・世界気候が、緯度・隔海度・高度・風・海流などによって影響を受けていることを理解する。 ・大気の大循環と緯度による降雨の違いの関係を理解し、それが砂漠や前線の分布に関わることを知る。 ・世界の気候区分の一例として、ケッペンが植生を指標に気温・降水量などを用いて区分した13の気候区について、分布の特徴とその成因について整理する。 ・それぞれの気候条件に対する植生・土壌について整理し、地球上の人々の生活は多様だが、その生活や各地の気候条件に対応していることを理解する。	定期試験 (中間・期末) 授業態度 (意欲・態度・発言等) ノート提出 などから、総合的に評価する。
	9	【気候】 ・気候要素 ・気候因子 ・大気大循環 ・ケッペンによる気候区分 ・植生・土壌	・世界気候が、緯度・隔海度・高度・風・海流などによって影響を受けていることを理解する。 ・大気の大循環と緯度による降雨の違いの関係を理解し、それが砂漠や前線の分布に関わることを知る。 ・世界の気候区分の一例として、ケッペンが植生を指標に気温・降水量などを用いて区分した13の気候区について、分布の特徴とその成因について整理する。 ・それぞれの気候条件に対する植生・土壌について整理し、地球上の人々の生活は多様だが、その生活や各地の気候条件に対応していることを理解する。	
	10			

3	11	【農牧業】 ・ホイットルセイによる農牧業区分 ・農産物の流通	・世界の農牧業区分の一例として、ホイットルセイが区分したものを、先進国と発展途上国の農業経営の形態の相違と、生産コスト・収益性の相違との相関を整理する。 ・農業に関する地域的差異を、自然条件だけでなく、文化や経済などから多角的・多面的に捉える。	定期試験 (学年末) 授業態度 (意欲・態度・発言等) ノート提出 などから、総合的に評価する。
	12	【水産業】 ・漁場の条件 ・世界の主な漁場	・水産業がさかんになる条件を自然・社会の両面から理解する。 ・主な漁場を取り上げ、日本と世界各地との類似性や差異を考察し、気候と水産業とが密接に関係していることを考える。	
	1	【資源】 ・エネルギー資源 ・鉱産資源 ・利用の現状	・世界全体からみたエネルギー・原料資源には地域的な多様性があることを理解する。 ・エネルギー・資源を生産量・消費量などから各国ごとに比較し、その類似性に気づく。また、日本の状況をそこから考える。	
	2	【工業】 ・工業発達史 ・立地条件 ・国際化 ・世界の主な工業地域	・産業革命による社会変革が、現代先進工業国の原点であることを理解する。 ・工業の発達要素について理解し、その分布には類似性があることを整理する。 ・複数の工業地域を扱い、それぞれの共通点や差異を比較する。	
	3			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学Ⅰ(内進特進)	4	1年12組

使用教科書	副教材
数学Ⅰ, 数学Ⅱ (数研出版)	マスメイト 数学ⅠA, Ⅱ+B (啓林館) Focus Gold web版 (啓林館)

1. 学習の目標

データの分析, 式と証明, 複素数と方程式, 図形と方程式, 三角関数, 指数関数・対数関数, 微分と積分について理解し, 基礎的な知識の習得と技術の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
数学的活動を通して数学的な見方や考え方の良さを認識し考察に活用しようとする。	数学的な見方や考え方を身につけ, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	対象となる事柄を数学的に考察し, 表現あるいは処理の仕方や推論の方法を身につけて問題を解決する。	基本的な概念, 原理, 法則, もしくは, 用語・記号などの意味を理解し, 基礎的な知識を身につける。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	5	【数学Ⅰ】 第5章 データの分析 1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位範囲 4. 分散と標準偏差 5. データの相関	データ, 度数分布表, ヒストグラム 平均値, 中央値, 最頻値 範囲, 四分位数, 四分位範囲, 四分位偏差, 箱ひげ図, ヒストグラムと箱ひげ図 分散, 標準偏差 散布図, 正の相関関係, 負の相関関係, 相関係数	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト ・提出物 ・授業態度 ・動画視聴 等
	6	【数学Ⅱ】 第1章 式と証明 第1節 式と計算 1. 3次式の展開と因数分解 2. 二項定理 3. 整式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式 第2節 等式と不等式の証明 6. 等式の証明 7. 不等式の証明	3次式の展開, 3次式の因数分解 パスカルの三角形, 二項定理, 二項定理の応用 整式の割り算, 分数式, 分数式の四則計算 恒等式, 恒等式の証明, 条件付きの等式	
	7	第2章 複素数と方程式 1. 複素数 2. 2次方程式の解と判別式 3. 解と係数の関係 4. 剰余の定理・因数定理 5. 高次方程式	複素数, 複素数の計算, 負の数の平方根 2次方程式の解, 2次方程式の解の種類の判別 2次方程式の解と係数の関係, 2次式の因数分解, 2数を解とする2次方程式, 2次方程式の実数解の符号 剰余の定理, 因数定理 因数分解による高次方程式の解法, 因数定理を利用する高次方程式の解法, 高次方程式の解と係数	
2	9	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	数直線上の2点間の距離, 線分の内分点・外分点 2点間の距離, 線分の内分・外分点の座標, 点に関して対称な点	

3	10	1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 第2節 円 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円 3節 軌跡と領域 8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域 4章 三角関数 1節 三角関数 1. 一般角と弧度法 2. 三角関数 3. 三角関数の性質 4. 三角関数のグラフ 5. 三角関数の応用	x, y の1次方程式の表す図形, 直線の方程式 2直線の平行と垂直, 2直線の関係と連立1次方程式の解, 2直線の交点を通る直線の方程式, 直線に関して対称な点, 点と直線の距離, 図形の性質の証明 円の方程式, $x^2 + y^2 + lx + my + n = 0$ の表す図形 円と直線の共有点, 円と直線の位置関係, 円の接線の方程式 2つの円の位置関係, 2つの円の共有点 軌跡と方程式 直線を境界線とする領域, 円を境界線とする領域, 連立不等式の表す領域, 領域と最大・最小, 領域を用いた証明法 一般角, 動径の表す角, 弧度法, 扇形の弧の長さとの面積 一般角の三角関数, 三角関数の相互関係 $\theta + 2n\pi$ の三角関数, $\theta + \pi$, $\theta + \pi/2$ の三角関数 $y = \sin \theta$, $y = \cos \theta$ のグラフ, $y = \tan \theta$ のグラフ, 三角関数のグラフの特徴, いろいろな三角関数のグラフ 三角関数を含む方程式, 不等式, 三角関数を含む関数の最大値, 最小値	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト ・提出物 ・授業態度 <p style="text-align: right;">等</p>		
		11	2節 加法定理 6. 加法定理 7. 加法定理の応用 8. 三角関数の合成 5章 指数関数と対数関数 1. 指数の拡張 2. 指数関数 3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数 6章 微分法と積分法 1節 微分係数と導関数 1. 微分係数 2. 導関数		正弦, 余弦の加法定理, 正接の加法定理, 2直線のなす角 2倍角の公式, 半角の公式, 三角関数を含む方程式, 不等式 三角関数の合成, 三角関数の合成の応用 0や負の整数の指数, 累乗根, 有理数の指数, 無理数の指数 指数関数のグラフ, 指数関数の性質 対数, 対数の性質, 底の変換公式 対数関数のグラフ, 対数関数の性質, 対数関数を含む方程式, 不等式, 対数関数を含む関数の最大値・最小値 常用対数, 常用対数の応用	
		12	2節 導関数の応用 3. 接線 4. 関数の値の変化 5. 最大値・最小値		平均の速さと瞬間の速さ, 平均変化率と微分係数, 極限值と微分係数, 微分係数の図形的な意味 導関数, 導関数の性質, 変数が x, y でない場合の導関数	
		1	6. 関数のグラフと方程式・不等式		接線の方程式, 曲線上にない点から曲線に引いた接線の方程式 関数の増減, 関数の極大, 極小 最大値・最小値 方程式の実数解の個数, 不等式の証明	
		2	3節 積分法 7. 不定積分 8. 定積分 9. 面積		導関数と不定積分, 不定積分の性質 面積と不定積分, 定積分, 定積分の性質, 定積分と微分法 曲線と x 軸の間の面積, 2つの曲線の間の面積, 絶対値のついた関数の定積分, 曲線と接線で囲まれた図形の面積	
		3				<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト ・提出物 ・授業態度 <p style="text-align: right;">等</p>

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学 I(特進)	4	1年・13組14組

使用教科書	副教材
数学 I, 数学 II (数研出版)	マスマグレート 数学 I + A, II + B (啓林館) フォーカスゴールド I + A, II + B (啓林館) 各問題集用 Library (啓林館)

1. 学習の目標

2次関数, 図形と計量, データの分析, 式と証明, 複素数と方程式, 図形と方程式について理解し, 基礎的な知識の習得と技術の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
数学的活動を通して数学的な見方や考え方の良さを認識し考察に活用しようとする。	数学的な見方や考え方を身につけ, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	対象となる事柄を数学的に考察し, 表現あるいは処理の仕方や推論の方法を身につけ問題を解決する。	基本的な概念, 原理, 法則, もしくは, 用語・記号などの意味を理解し, 基礎的な知識を身につける。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	【数学 I】	動画配信による授業	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト ・提出物 ・授業態度 等
	5			
	6	3. 2次関数の最大と最小 4. 2次関数の決定	授業開始 2次関数の最大と最小, 定義域に制限があるときの最大と最小, 最大・最小の応用 頂点や軸に関する条件が与えられた場合, グラフ上の3点が与えられた場合	
	7	第2節 2次方程式と2次不等式 5. 2次方程式	因数分解による解法, 2次方程式の解の公式, 2次方程式の実数解の個数と判別式	
		6. グラフと2次方程式 7. グラフと2次不等式	2次関数のグラフとx軸の共有点の座標, 2次関数のグラフとx軸の位置関係 1次関数のグラフと1次不等式, 2次不等式, 2次不等式の応用, 連立不等式	
		第4章 図形と計量 第1節 三角比 1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張	正接・正弦・余弦, 三角比の表, 三角比の応用 正弦・余弦・正接の関係, $90^\circ - \theta$ の三角比 座標を用いた三角比の定義, $180^\circ - \theta$ の三角比, 等式を満たす θ , 三角比の相互関係, 直線の傾きと正接	
	2	9	第2節 三角形への応用 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用	

3	10	7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用	三角形の面積, いろいろな図形の計量, 三角形の内接円と面積 空間図形への応用	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト ・提出物 ・授業態度 等
	11	【数学Ⅱ】 第1章 式と証明 第1節 式と計算 1. 3次式の展開と 因数分解 2. 二項定理 3. 整式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式 第2節 等式と不等式 の証明 6. 等式の証明 7. 不等式の証明	3次式の展開, 3次式の因数分解 パスカルの三角形, 二項定理, 二項定理の応用 整式の割り算, 分数式, 分数式の四則計算 恒等式	
	12	第2章 複素数と方程式 1. 複素数 2. 2次方程式の解と 判別式 3. 解と係数の関係 4. 剰余の定理・ 因数定理 5. 高次方程式	複素数, 複素数の計算, 負の数の平方根 2次方程式の解, 2次方程式の解の種類の判別 2次方程式の解と係数の関係, 2次式の因数分解, 2数を解とする2次方程式, 2次方程式の実数解の符号 剰余の定理, 因数定理 因数分解による高次方程式の解法, 因数定理を利用する高次 方程式の解法, 高次方程式の解と係数	
1	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係	数直線上の2点間の距離, 線分の内分点・外分点 2点間の距離, 線分の内分点・外分点の座標, 点に関して対称 な点 x, y の1次方程式の表す図形, 直線の方程式 2直線の平行と垂直, 2直線の関係と連立1次方程式の解, 2直線の交点を通る直線の方程式, 直線に関して対称な点, 点と直線の距離, 図形の性質の証明	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト ・提出物 ・授業態度 等	
2	第2節 円 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円	円の方程式, $x^2+y^2+lx+my+n=0$ の表す図形 円と直線の共有点, 円と直線の位置関係, 円の接線の方程式 2つの円の位置関係, 2つの円の共有点 進捗状況によっては, さらに進む場合がある。		
	3			

※ 上記の内容は, 進捗によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学I	4	1年1組～11組

使用教科書	副教材
数学I (数研出版) 改訂版 数学II (数研出版) 改訂版	マスメグレードI+A, II+B (啓林館) はぎ取り式練習ドリル数学I, II標準編 (数研出版)

1. 学習の目標

数と式、図形と計量、二次関数、データの分析、式と証明及び複素数と方程式について理解し、基礎的な知識の習得と技術を習熟し、事象を数学的に考察する能力を身につけ、数学の有用性を認識できるようになるとともに、それらを活用する態度を身につける。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
数学的活動を通して数学的な見方や考え方の良さを認識し考察に活用しようとする。	数学的な見方や考え方を身につけ、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	対象となる事柄を数学的に考察し、表現あるいは処理の仕方や推論の方法を身につけて問題を解決する。	基本的な概念、原理、法則、もしくは、用語・記号などの意味を理解し、基礎的な知識を身につける。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1 学 期	4	第1章数と式 第1節式の計算 1. 整式 2. 整式の加法と減法および乗法 3. 因数分解	単項式と多項式、同類項 整式の加法・減法、整式の乗法、展開の工夫、式の展開の工夫 共通因数のくくり出し、2次式の因数分解、いろいろな方法による因数分解	
		第2節実数 4. 実数 5. 根号を含む式の計算	有理数、実数、数の範囲と四則、実数と数直線、絶対値 平方根、根号を含む式の計算、分母の有理化、式の値	
	5	第3節1次不等式 6. 1次不等式 7. 1次不等式の利用	不等式、不等式の基本性質、不等式の解、連立不等式 1次不等式の応用、絶対値を含む方程式・不等式	
		第5章データの分析 1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位範囲 4. 分散と標準偏差 5. データの相関	度数分布表とヒストグラム 平均値、中央値、最頻値 範囲、四分位数、四分位範囲、四分位偏差、箱ひげ図 ヒストグラムと箱ひげ図 分散、標準偏差 散布図、正の相関関係、負の相関関係、相関係数	
6	第3章2次関数 第1節2次関数とグラフ 1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ	関数、関数のグラフ $y=ax^2$ のグラフ、点の移動、 $y=ax^2+q$ のグラフ、 $y=a(x-p)^2$ のグラフ、 $y=a(x-p)^2+q$ のグラフ、 $y=ax^2+bx+c$ のグラフ、放物線の平行移動、放物線の対称移動 2次関数の最大と最小、定義域に制限がある場合の最大と最小、最大・最小の応用		
	7	3. 2次関数の最大と最小 4. 2次関数の決定		頂点や軸に関する条件が与えられた場合、グラフ上の3点が与えられた場合

- ・期末試験
- ・確認テスト
- ・小テスト
- ・提出物
- ・授業態度等

2 学 期	9	第2節 2次方程式と 2次不等式 5. 2次方程式 6. グラフと2次方程式 7. グラフと2次不等式	因数分解による解法, 2次方程式の解の公式, 2次方程式の実数解の個数と判別式 2次方程式のグラフとx軸の共有点の座標, 2次関数のグラフとx軸の位置関係 1次関数のグラフと1次不等式, 2次不等式, 2次不等式の応用, 連立不等式	
	10	第4章図形と計量 第1節 三角比 1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張 第2節 三角形への応用 4. 正弦定理 5. 余弦定理	正接・正弦・余弦, 三角比の表, 三角比の応用 正接・正弦・余弦の関係, $90^\circ - \theta$ の三角比 座標を用いた三角比の定義, $180^\circ - \theta$ の三角比, 等式を満たす θ , 三角比の相互関係, 直線の傾きと正接 余弦定理, 三角形の角の余弦を表す式, 三角形の角の大きさと辺の長さの関係 三角形の辺と角の決定	・ 中間試験 ・ 小テスト ・ 提出物 ・ 授業態度 等
	11	6. 正弦定理と余弦定理 の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用	三角形の面積, いろいろな図形の計量, 三角形の内接円と面積	
	12	【数学II】 第1章式と証明 第1節式と計算 1. 3次式の展開と 因数分解	3次式の展開, 3次式の因数分解	・ 期末試験 ・ 小テスト ・ 提出物 ・ 授業態度 等
	1	2. 二項定理 3. 整式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式	パスカルの三角形, 二項定理, 二項定理の応用 整式の割り算 分数式, 分数式の四則計算 恒等式	
	3	第2章複素数と方程式 1. 複素数 2. 2次方程式の解と判別式	複素数, 複素数の計算, 負の数の平方根 2次方程式の解, 2次方程式の解の種類の判別 2次方程式の解と係数の関係, 2次式の因数分解, 2数を解とする2次方程式, 2次方程式の実数解の符号	
	2	3. 解と係数の関係 4. 剰余の定理と 因数定理 5. 高次方程式	剰余の定理, 因数定理 因数分解による高次方程式の解法, 因数定理を利用する高次方程式の解法, 高次方程式解と係数	・ 学年末試験 ・ 小テスト ・ 提出物 ・ 授業態度 等

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学A	2	1年1～11組

使用教科書	副教材
数学A (数研出版)	マスグレード 数学I+A (Libry) (啓林館) はぎ取り式 練習ドリル 数学A 標準編 (数研出版)

1. 学習の目標

集合と論理、場合の数や確率及び図形の性質について理解し、基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識出来るようにする。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
数学的活動を通して、場合の数と確率、論理と集合及び図形の性質における考え方や体系に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらの事象の考察に活用しようとする。	数学的な活動を通して、場合の数と確率、論理と集合及び図形の性質における数学的な考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ論理的に考え、と共に思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	場合の数と確率、論理と集合及び図形の性質において、事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、よりよく問題を解決する。	場合の数と確率、論理と集合及び図形の性質における基本的な概念、原理、法則、用語、記号などを理解し、基本的な知識を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	集合 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	動画配信にて実施 集合とその表し方、部分集合、共通部分と和集合、補集合 ド・モルガンの法則 和集合の要素の個数、補集合の要素の個数	期末試験の成績 授業態度 提出物等
		1. 集合の要素の個数	樹形図、和の法則、積の法則	
		5	2. 場合の数 3. 順列	
	6	4. 円順列・重複順列	分散登校にて実施 円順列、重複順列	
		5. 組合せ	組合せ、組合せの計算、組分け、同じものを含む順列	
	7	第2節 確率 6. 事象と確率 7. 確率の基本性質 8. 独立な試行の確率	確率の意味、試行と事象、事象の確率、 積事象と和事象、排反事象、確率の基本性質、和事象の確率、 余事象の確率 独立な試行、独立な試行の確率、3つ以上の独立な試行	
	2	9	9. 反復試行の確率 10. 条件付きの確率	
第2章 図形の性質 第1節 平面図形				
1. 三角の辺の比		線分の内分・外分		
2. 三角形の外心、 内心、重心		外心、内心、重心、正三角形の重心、外心、内心 正三角形の外心、内心、重心		
3. チェバの定理、 メネラウスの定理		チェバの定理、メネラウスの定理		
4. 円に内接する 四角形		円周角の定理、円に内接する四角形の性質、四角形が円に内接 するための条件		
5. 円と直線		円の接線、接線と弦の作る角		
6. 方べきの定理		方べきの定理、方べきの定理の逆		
10	7. 2円の位置関係 8. 作図	2つの円の位置関係、共通接線 平行な直線の作図、線分の内分点・外分点の作図、		

3	11	第2節 空間図形 9. 直線と平面 10. 多面体	いろいろな長さの線分の作図 2直線の位置関係, 直線と平面の位置関係, 2平面の位置関係 多面体, 正多面体の体積	中間試験の成績 授業態度 提出物等
		第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 1. 約数と倍数 2. 最大公約数と 最小公倍数	約数と倍数, 倍数の判定法, 素数と素因数分解 最大公約数と最小公倍数, 互いに素	
		12 3. 整数の割り算と 商および余り	割り算における商と余り, 余りによる整数の分類, 合同式	
	1	第2節 ユークリッドの 互除法 4. ユークリッドの 互除法	割り算と最大公約数, ユークリッドの互除法, 最大公約数を表 す式	学年末試験 授業態度 提出物等
		5. 1次不定方程式 第3節 整数の性質 の活用	1次不定方程式と整数解, 1次不定方程式の利用	
		2 6. 分数と小数	分数と有限小数・循環小数, 有限小数・循環小数で表される条 件	
3	7. n進法	n進法, n進法の小数, 2進法の四則計算		

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学A	2	1年12～14組

使用教科書	副教材
数学A (数研出版)	マスグレード 数学I+A (Libry) (啓林館) Focus Gold 数学I+A (Libry) (啓林館)

1. 学習の目標

集合と論理、場合の数や確率及び図形の性質について理解し、基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識出来るようにする。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
数学的活動を通して、場合の数と確率、論理と集合及び図形の性質における考え方や体系に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらの事象の考察に活用しようとする。	数学的な活動を通して、場合の数と確率、論理と集合及び図形の性質における数学的な考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ論理的に考え、と共に思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	場合の数と確率、論理と集合及び図形の性質において、事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、よりよく問題を解決する。	場合の数と確率、論理と集合及び図形の性質における基本的な概念、原理、法則、用語、記号などを理解し、基本的な知識を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	集合 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	動画配信にて実施 集合とその表し方、部分集合、共通部分と和集合、補集合 ド・モルガンの法則 和集合の要素の個数、補集合の要素の個数	期末試験の成績 授業態度 提出物等
	5	1. 集合の要素の個数 2. 場合の数 3. 順列 4. 円順列・重複順列 5. 組合せ	樹形図、和の法則、積の法則 順列、順列の計算 円順列、重複順列 組合せ、組合せの計算、組分け、同じものを含む順列	
	6	第2節 確率 6. 事象と確率 7. 確率の基本性質 8. 独立な試行の確率	分散登校にて実施 確率の意味、試行と事象、事象の確率、 積事象と和事象、排反事象、確率の基本性質、和事象の確率、 余事象の確率 独立な試行、独立な試行の確率、3つ以上の独立な試行	
7	9. 反復試行の確率 10. 条件付きの確率	反復試行の確率、反復試行の確率の応用 条件付き確率、確率の乗法定理、やや複雑な事象の確率		
2	9	第2章 図形の性質 第1節 平面図形		
		1. 三角の辺の比	線分の内分・外分	
		2. 三角形の外心、 内心、重心	外心、内心、重心、正三角形の重心、外心、内心 正三角形の外心、内心、重心	
		3. チェバの定理、 メネラウスの定理	チェバの定理、メネラウスの定理	
		4. 円に内接する 四角形	円周角の定理、円に内接する四角形の性質、四角形が円に内接 するための条件	
		5. 円と直線	円の接線、接線と弦の作る角	
		6. 方べきの定理	方べきの定理、方べきの定理の逆	
		7. 2円の位置関係	2つの円の位置関係、共通接線	
	8. 作図	平行な直線の作図、線分の内分点・外分点の作図、 いろいろな長さの線分の作図		

3	10	第2節 空間図形 9. 直線と平面 10. 多面体	2直線の位置関係, 直線と平面の位置関係, 2平面の位置関係 多面体, 正多面体の体積	中間試験の成績 授業態度 提出物等
	11	第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 1. 約数と倍数 2. 最大公約数と 最小公倍数 3. 整数の割り算と 商および余り	約数と倍数, 倍数の判定法, 素数と素因数分解 最大公約数と最小公倍数, 互いに素 割り算における商と余り, 余りによる整数の分類, 合同式	
	12	第2節 ユークリッドの 互除法		
	1	4. ユークリッドの 互除法 5. 1次不定方程式 第3節 整数の性質 の活用	割り算と最大公約数, ユークリッドの互除法, 最大公約数を表 す式 1次不定方程式と整数解, 1次不定方程式の利用	学年末試験 授業態度 提出物等
	2	6. 分数と小数 7. n進法	分数と有限小数・循環小数, 有限小数・循環小数で表される条 件 n進法, n進法の小数, 2進法の四則計算	
	3			

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	物理基礎	2	1年1組～11組

使用教科書	副教材
数研出版 新編 物理基礎	啓林館 新編 センサー 物理基礎

1. 学習の目標

身近な自然の事象・現象についての観察、実験を通して、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を身に付ける。
 主に物理分野に関する現象を観察、実験などを通して探究し、基本的な概念や原理・法則を系統的に理解する。
 将来的に理系物理を選択し、理工系の大学を目指すきっかけを作り、2年次で物理を選択した場合の基礎力を身に付ける。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
身近な自然の事象・現象に関心をもち、毎時間の授業に意欲的に取り組むことができる。	授業で学んだ内容を理解し、実験を通して、科学的な思考力や判断力を身につけることができる。	実験の過程と結果及びそこから導き出した考察を的確に表現することができる。	自然の事象・現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけることができる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	物理数学	※学校休業期間は映像授業の配信とする 指数・有効数字・三角比	定期試験の点数と平常点(提出物・小テスト・授業態度)を考慮して評価する。
	5	第1編 運動とエネルギー 1 運動の表し方	①速度 ②加速度 ③落体の運動	
	6	2 運動の法則	①力とそのはたらき ②力のつりあい	
	7	実験①	⑥運動の法則 ④摩擦力	
2	9	3 仕事と力学的エネルギー	⑤液体や気体から受ける力	定期試験の点数と平常点(提出物・小テスト・授業態度)を考慮して評価する。
	10		①仕事 ②運動エネルギー ③位置エネルギー ④力学的エネルギーの保存	
	11	第2編 熱 1 熱とエネルギー	①熱と熱量 ②熱と物質の状態 ③熱と仕事 ④不可逆変化と熱機関	
	12			
3	1	第3編 波 1 波の性質	①波と媒質の運動 ②重ね合わせの原理	定期試験の点数と平常点(提出物・小テスト・授業態度)を考慮して評価する。
	2	2 波の性質	①波の性質 ②発音体の振動と共振・共鳴	
	3			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	物理基礎	2	1年12組～14組

使用教科書	副教材
数研出版 新編 物理基礎	啓林館 新編 センサー 物理基礎

1. 学習の目標

身近な自然の事象・現象についての観察、実験を通して、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を身に付ける。
 主に物理分野に関する現象を観察、実験などを通して探究し、基本的な概念や原理・法則を系統的に理解する。
 将来的に理系物理を選択し、理工系の大学を目指すきっかけを作り、2年次で物理を選択した場合の基礎力を身に付ける。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
身近な自然の事象・現象に関心をもち、毎時間の授業に意欲的に取り組むことができる。	授業で学んだ内容を理解し、実験を通して、科学的な思考力や判断力を身につけることができる。	実験の過程と結果及びそこから導き出した考察を的確に表現することができる。	自然の事象・現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけることができる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	物理数学	※学校休業期間は映像授業の配信とする 指数・有効数字・三角比	定期試験の点数と平常点(提出物・小テスト・授業態度)を考慮して評価する。
	5	第1編 運動とエネルギー 1 運動の表し方	①速度 ②加速度 ③落体の運動	
	6	2 運動の法則	①力とそのはたらき ②力のつりあい	
	7	実験①	⑥運動の法則 ④摩擦力	
2	9	3 仕事と力学的エネルギー	⑤液体や気体から受ける力	定期試験の点数と平常点(提出物・小テスト・授業態度)を考慮して評価する。
	10		①仕事 ②運動エネルギー ③位置エネルギー ④力学的エネルギーの保存	
	11	第2編 熱 1 熱とエネルギー	①熱と熱量 ②熱と物質の状態 ③熱と仕事 ④不可逆変化と熱機関	
	12			
3	1	第3編 波 1 波の性質	①波と媒質の運動 ②重ね合わせの原理	定期試験の点数と平常点(提出物・小テスト・授業態度)を考慮して評価する。
	2	2 波の性質	①波の性質 ②発音体の振動と共振・共鳴	
	3			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	化学基礎	2	高校1年1組

使用教科書	副教材
第一学習社 高等学校 改訂 化学基礎	第一学習社 セミナー化学基礎

1. 学習の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・化学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め化学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。 ・化学の役割や物質の扱い方を理解するとともに、物質に対する関心を高め、物質を探求する方法を身につける。また、基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。 ・物質に関する基本的な概念や法則を理解するとともに、それらの日常生活と関連付けて考察できるようにする。
--

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探求するとともに、科学的態度を身につける。	化学的な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考え、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断する。	化学的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探求する方法を身に付け、観察、実験の過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。	観察、実験などを通して化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第I章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素 (動画配信) ①物質と成分 ②物質の構成元素 ③状態変化と熱運動	<ul style="list-style-type: none"> ・物質は混合物と純物質、化合物と単体などに分類されていることを学習する。 (1) 物質の構造や性質に関する事象に関心を持ち、意欲的に物質を探求しようとする。 (2) 混合物の分離や成分元素の確認などの実験を理解し、物質を探求する具体的な方法を身に付ける。 	定期試験・授業態度 提出物・小テスト等で 評価
	5	第2節 原子の構造と元素の周期表 (動画配信) ①原子の構造 ②元素の相互関係	<ul style="list-style-type: none"> ・原子の構造について理解する。 ・元素の周期律を理解し、周期表の成り立ちについて学習する。 (1) 物質の構成粒子に関して理解し、知識を身に付けている。 (2) 電子の配置のされ方に応じて、原子の性質が異なることを推論する。 	
	6	第3節 物質と化学結合 ①イオン ②イオン結合とイオン結晶 ③分子と共有結合 ④分子間の結合 ⑤共有結合の結晶	<ul style="list-style-type: none"> ・イオンの生成について学習し、イオン結合、イオン結晶を理解する。 ・共有結合、金属結合について学習し、化学結合によって物質が分類できることを理解する。 (1) 物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子から成り立っていることを理解しようとする。 (2) 物質の構造や性質に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付ける。 	
7	⑦金属と金属結合 ⑧結晶の比較	<ul style="list-style-type: none"> (3) 物質の構成粒子に関して理解し、知識を身に付ける。 		
2	9	第II章 物質の変化 第1節 物質質量と化学反応式 ①原子量・分子量と式量 ②物質質量	<ul style="list-style-type: none"> ・元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。 ・物質質量とその応用を理解する。 ・物質の溶解と濃度について学習する。 ・化学反応における量的関係について学ぶ。 (1) 化学変化の量的関係を物質質量と関連付けて考察しようとする。 	定期試験・授業態度 提出物・小テスト等で 評価

2	10	③溶解と濃度 ④化学変化と化学反応式 ⑤化学反応の量的関係 ⑥化学変化における諸法則	(2) 化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを考察する。 (3) 原子量・分子量・式量・物質量を理解し、物質量を用いた簡単な計算ができる。 (4) 化学式を使用できるとともに、原子量・分子量・式量・物質量の知識を身に付ける。	定期試験・授業態度 提出物・小テスト等で 評価
	11	第2節 酸と塩基の反応 ①酸と塩基 ②水素イオン濃度	<ul style="list-style-type: none"> ・酸と塩基の定義を理解する。 ・酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。 ・中和を理解し、塩の種類を学習する。 ・中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。 	
	12	③中和と塩 ④中和滴定	<ol style="list-style-type: none"> (1) 酸、塩基や中和反応に関心を持ち、それらを日常生活に関連付けて、意欲的に探究しようとする。 (2) 酸・塩基の観察、実験から共通性を見出し、酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて考察する。 (3) ビュレット、ホールピペットなどの取り扱いができると同時に、中和滴定の技能を習得している。 (4) 日常生活と関連付けて酸・塩基の反応を捉えることができ、さらに中和滴定の量的関係を理解する。 	
3	1	第3節 酸化還元反応 ①酸化と還元	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化・還元の定義を理解し、酸化剤、還元剤について学習する。 ・酸化還元反応における酸化剤と還元剤の量的関係を理解する。 ・金属のイオン化傾向にもとづいて、金属の反応性を学ぶ。 	定期試験・授業態度 提出物・小テスト等で 評価
	2	②酸化剤と還元剤の反応 ③酸化還元の量的関係 ④金属のイオン化傾向	<ol style="list-style-type: none"> (1) 酸化・還元の定義を理解し、知識を身に付ける。 (2) 代表的な酸化剤・還元剤の観察から電子の授受としての規則性を見出し、自らの考えで表現できるようにする。 (3) 酸化還元反応における量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。 (4) 金属のイオン化傾向と関連付けて、金属の反応性を考察する。 	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	化学基礎	2	高校1年2組～11組

使用教科書	副教材
第一学習社 高等学校 改訂 化学基礎	第一学習社 セミナー化学基礎+化学

1. 学習の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・化学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め化学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。 ・化学の役割や物質の扱い方を理解するとともに、物質に対する関心を高め、物質を探求する方法を身につける。また、基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。 ・物質に関する基本的な概念や法則を理解するとともに、それらの日常生活と関連付けて考察できるようにする。
--

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探求するとともに、科学的態度を身につける。	化学的な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考え、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断する。	化学的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探求する方法を身に付け、観察、実験の過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。	観察、実験などを通して化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第I章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素 (動画配信) ①物質と成分 ②物質の構成元素 ③状態変化と熱運動	<ul style="list-style-type: none"> ・物質は混合物と純物質、化合物と単体などに分類されていることを学習する。 (1) 物質の構造や性質に関する事象に関心を持ち、意欲的に物質を探求しようとする。 (2) 混合物の分離や成分元素の確認などの実験を理解し、物質を探求する具体的な方法を身に付ける。 	定期試験・授業態度 提出物・小テスト等で 評価
	5	第2節 原子の構造と元素の周期表 (動画配信) ①原子の構造 ②元素の相互関係	<ul style="list-style-type: none"> ・原子の構造について理解する。 ・元素の周期律を理解し、周期表の成り立ちについて学習する。 (1) 物質の構成粒子に関して理解し、知識を身に付けている。 (2) 電子の配置のされ方に応じて、原子の性質が異なることを推論する。 	
	6	第3節 物質と化学結合 ①イオン ②イオン結合とイオン結晶 ③分子と共有結合 ④分子間の結合 ⑤共有結合の結晶	<ul style="list-style-type: none"> ・イオンの生成について学習し、イオン結合、イオン結晶を理解する。 ・共有結合、金属結合について学習し、化学結合によって物質が分類できることを理解する。 (1) 物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子から成り立っていることを理解しようとする。 (2) 物質の構造や性質に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付ける。 	
7	⑦金属と金属結合 ⑧結晶の比較	<ul style="list-style-type: none"> (3) 物質の構成粒子に関して理解し、知識を身に付ける。 		
2	9	第II章 物質の変化 第1節 物質質量と化学反応式 ①原子量・分子量と式量 ②物質質量	<ul style="list-style-type: none"> ・元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。 ・物質質量とその応用を理解する。 ・物質の溶解と濃度について学習する。 ・化学反応における量的関係について学ぶ。 (1) 化学変化の量的関係を物質質量と関連付けて考察しようとする。 	定期試験・授業態度 提出物・小テスト等で 評価

2	10	③溶解と濃度 ④化学変化と化学反応式 ⑤化学反応の量的関係	(2)化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを考察する。 (3)原子量・分子量・式量・物質量を理解し、物質量を用いた簡単な計算ができる。 (4)化学式を使用できるとともに、原子量・分子量・式量・物質量の知識を身に付ける。	定期試験・授業態度 提出物・小テスト等で 評価
	11	⑥化学変化における諸法則		
	12	第2節 酸と塩基の反応 ①酸と塩基 ②水素イオン濃度 ③中和と塩 ④中和滴定	<ul style="list-style-type: none"> ・酸と塩基の定義を理解する。 ・酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。 ・中和を理解し、塩の種類を学習する。 ・中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。 <p>(1) 酸、塩基や中和反応に関心を持ち、それらを日常生活に関連付けて、意欲的に探究しようとする。</p> <p>(2) 酸・塩基の観察、実験から共通性を見出し、酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて考察する。</p> <p>(3) ビュレット、ホールピペットなどの取り扱いができると同時に、中和滴定の技能を習得する。</p> <p>(4) 日常生活と関連付けて酸・塩基の反応を捉えることができ、さらに中和滴定の量的関係を理解する。</p>	
3	1	第3節 酸化還元反応 ①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化・還元の定義を理解し、酸化剤、還元剤について学習する。 ・酸化還元反応における酸化剤と還元剤の量的関係を理解する。 ・金属のイオン化傾向にもとづいて、金属の反応性を学ぶ。 <p>(1) 酸化・還元の定義を理解し、知識を身に付ける。</p> <p>(2) 代表的な酸化剤・還元剤の観察から電子の授受としての規則性を見出し、自らの考えで表現できるようにする。</p> <p>(3) 酸化還元反応における量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。</p> <p>(4) 金属のイオン化傾向と関連付けて、金属の反応性を考察する。</p>	定期試験・授業態度 提出物・小テスト等で 評価
	2	③酸化還元の量的関係 ④金属のイオン化傾向		

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	化学基礎	2	高校1年12組～14組

使用教科書	副教材
第一学習社 高等学校 改訂 化学基礎	第一学習社 セミナー化学基礎+化学

1. 学習の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・化学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め化学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。 ・化学の役割や物質の扱い方を理解するとともに、物質に対する関心を高め、物質を探求する方法を身につける。また、基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。 ・物質に関する基本的な概念や法則を理解するとともに、それらの日常生活と関連付けて考察できるようにする。
--

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
化学的な事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探求するとともに、科学的態度を身につける。	化学的な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考え、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断する。	化学的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探求する方法を身に付け、観察、実験の過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。	観察、実験などを通して化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第1章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素 (動画配信) ①物質と成分 ②物質の構成元素 ③状態変化と熱運動	<ul style="list-style-type: none"> ・物質は混合物と純物質、化合物と単体などに分類されていることを学習する。 (1) 物質の構造や性質に関する事象に関心を持ち、意欲的に物質を探求しようとする。 (2) 混合物の分離や成分元素の確認などの実験を理解し、物質を探求する具体的な方法を身に付ける。 	定期試験・授業態度 提出物・小テスト等で評価
	5	第2節 原子の構造と元素の周期表 (動画配信) ①原子の構造 ②元素の相互関係	<ul style="list-style-type: none"> ・原子の構造について理解する。 ・元素の周期律を理解し、周期表の成り立ちについて学習する。 (1) 物質の構成粒子に関して理解し、知識を身に付ける。 (2) 電子の配置のされ方に応じて、原子の性質が異なることを推論する。 	
	6	第3節 物質と化学結合 ①イオン ②イオン結合とイオン結晶 ③分子と共有結合 ④分子間の結合 ⑤共有結合の結晶	<ul style="list-style-type: none"> ・イオンの生成について学習し、イオン結合、イオン結晶を理解する。 ・共有結合、金属結合について学習し、化学結合によって物質が分類できることを理解する。 (1) 物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子から成り立っていることを理解しようとする。 (2) 物質の構造や性質に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付ける。 	
	7	⑦金属と金属結合 ⑧結晶の比較	<ul style="list-style-type: none"> (3) 物質の構成粒子に関して理解し、知識を身に付ける。 	

2	9	第Ⅱ章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式 ①原子量・分子量と式量 ②物質 ③溶解と濃度	<ul style="list-style-type: none"> ・元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。 ・物質とその応用を理解する。 ・物質の溶解と濃度について学習する。 ・化学反応における量的関係について学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 化学変化の量的関係を物質と関連付けて考察しようとする。 (2) 化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを考察する。 (3) 原子量・分子量・式量・物質を理解し、物質を用いた簡単な計算ができるようにする。 (4) 化学式を使用できるとともに、原子量・分子量・式量・物質量の知識を身に付ける。 	定期試験・授業態度 提出物・小テスト等で 評価
	10	④化学変化と化学反応式 ⑤化学反応の量的関係 ⑥化学変化における諸法則		
	11	第2節 酸と塩基の反応 ①酸と塩基 ②水素イオン濃度 ③中和と塩 ④中和滴定		
12	第3節 酸化還元反応 ①酸化と還元	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化・還元の定義を理解し、酸化剤、還元剤について学習する。 		
3	1	②酸化剤と還元剤の反応 ③酸化還元の量的関係 ④金属のイオン化傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化還元反応における酸化剤と還元剤の量的関係を理解する。 ・金属のイオン化傾向にもとづいて、金属の反応性を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 酸化・還元の定義を理解し、知識を身に付ける。 (2) 代表的な酸化剤・還元剤の観察から電子の授受としての規則性を見出し、自らの考えで表現できるようにする。 (3) 酸化還元反応における量的関係を物質と関連付けて考察しようとする。 (4) 金属のイオン化傾向と関連付けて、金属の反応性を考察する。 	定期試験・授業態度 提出物・小テスト等で 評価
	2	⑤電池 ⑥電気分解	<ol style="list-style-type: none"> (5) イオン化傾向の差によって電流が流れる電池の仕組みと、具体的な例について学習する。 (6) 酸化還元反応の一種であり、電流を流すことで強制的に反応を起こす仕組みについて学習する。 	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理 科	生物基礎	2	1年1組～11組

使用教科書	副教材
東京書籍 改訂 生物基礎	数研出版 スタディアップノート

1. 学習の目標

<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高める。 目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
・生物や生命現象に関心を持ち、主体的に探求する姿勢を身につけている。	・生物や生命現象を実証的・論理的に考え、科学的な判断をする。	・生物や生命現象に関する観察・実験技術を身に付けて、結果から出した考えを的確に表現することができる。	・生物や生命現象について基本的な概念や原理法則についての理解を深め、知識を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	生物の特徴 遺伝子とその働き	<ul style="list-style-type: none"> 生物の多様性と共通性について理解する。 単細胞生物と多細胞生物、細胞群体について理解する。 生物に共通な特性について理解する。 各種細胞の大きさについて理解する。 基本的な細胞構造と細胞小器官を理解する。 代謝における酵素のはたらきについて学ぶ。 代謝（呼吸と光合成）の概念について学ぶ。 ATPの構造と働きについて理解する。 ミトコンドリアと葉緑体の起源について学ぶ。 	定期試験（期末） 授業態度 （意欲・態度・発言など）、
	5		⇒4・5月の内容は、動画で行う。	
	6		<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子の本体、DNAの構造、研究史について理解する。 遺伝子の複製と分配、細胞周期について理解する。 遺伝情報とタンパク質の合成について理解する。 	
	7		<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子とゲノムについて理解する。 細胞内での遺伝子発現について理解する。 染色体とパフについて理解する。 	
2	9	体内環境 体内環境維持のしくみ 免疫	<ul style="list-style-type: none"> 体内環境の維持について理解する。 血液の成分と働きについて学ぶ。 酸素解離曲線、血液凝固について学ぶ。 体液の循環、心臓の構造について学ぶ。 体内環境を調節する器官について理解する。 	定期試験（中間・期末） 授業態度 （意欲・態度・発言など）、
	10		<ul style="list-style-type: none"> 自律神経系のはたらきと構造について学ぶ。 内分泌系による調節（ホルモンのはたらき）について学ぶ。 血糖量調節について学ぶ。 体温調節について学ぶ。 	
	11		<ul style="list-style-type: none"> 生体の物理的・化学的防御について学ぶ。 	
	12		<ul style="list-style-type: none"> 免疫系（自然免疫・獲得免疫）について理解する。 免疫疾患と免疫を利用した医療について理解する。 	

1	植生の多様性と遷移 バイオームと その分布	<ul style="list-style-type: none"> ・植生とその環境について理解する。 ・森林の構造と光環境について学ぶ。 ・陰生植物と陽生植物について理解する。 ・遷移（一次遷移、二次遷移）について理解する。 ・世界のバイオーム、日本のバイオームについて理解する。 ・水平分布と垂直分布について学ぶ。 	<p>定期試験（学年末） 授業態度 （意欲・態度・発言 など）、</p> <p>生態系の内容について 調べ、パワーポイント を使ってプレゼンテー ションを行い、総合的に評 価する。</p>
2	生態系とその保全	<ul style="list-style-type: none"> ・生態系の成り立ちについて学ぶ。 ・生態系を流れるエネルギーについて理解する。 ・栄養段階と生態ピラミッドについて理解する。 ・炭素と窒素の循環について理解する。 ・生態系の物質収支について理解する。 ・生態系のバランスと保全について理解する。 	
3		<ul style="list-style-type: none"> ・生物の多様性保全の重要性について学ぶ。 	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理 科	生物基礎	2	1年12、13、14組

使用教科書	副教材
東京書籍 改訂 生物基礎	数研出版 スタディアップノート

1. 学習の目標

<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高める。 目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
・生物や生命現象に関心を持ち、主体的に探求する姿勢を身につけている。	・生物や生命現象を実証的・論理的に考え、科学的な判断をする。	・生物や生命現象に関する観察・実験技術を身に付けて、結果から出した考えを的確に表現することができる。	・生物や生命現象について基本的な概念や原理法則についての理解を深め、知識を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	生物の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 生物の多様性と共通性について理解する。 単細胞生物と多細胞生物、細胞群体について理解する。 生物に共通な特性について理解する。 各種細胞の大きさについて理解する。 基本的な細胞構造と細胞小器官を理解する。 	定期試験・授業態度(意欲・態度・発言など)・提出物・小テスト等で評価
	5		<ul style="list-style-type: none"> 代謝における酵素のはたらきについて学ぶ。 代謝(呼吸と光合成)の概念について学ぶ。 ATPの構造と働きについて理解する。 ミトコンドリアと葉緑体の起源について学ぶ。 <p>⇒4、5月の内容は、NF-online classの授業動画で配信。</p>	
	6	遺伝子とその働き	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子の本体、DNAの構造、研究史について理解する。 遺伝子の複製と分配、細胞周期について理解する。 遺伝情報とタンパク質の合成について理解する。 	
	7		<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子とゲノムについて理解する。 細胞内での遺伝子発現について理解する。 染色体とパフについて理解する。 	
2	9	体内環境	<ul style="list-style-type: none"> 体内環境の維持について理解する。 血液の成分と働きについて学ぶ。 酸素解離曲線、血液凝固について学ぶ。 体液の循環、心臓の構造について学ぶ。 体内環境を調節する器官について理解する。 	定期試験・授業態度(意欲・態度・発言など)・提出物・小テスト等で評価
	10	体内環境維持のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 自律神経系のはたらきと構造について学ぶ。 内分泌系による調節(ホルモンのはたらき)について学ぶ。 血糖量調節について学ぶ。 体温調節について学ぶ。 	
	11		<ul style="list-style-type: none"> 生体の物理的・化学的防御について学ぶ。 	

12	免疫	<ul style="list-style-type: none"> ・免疫系（自然免疫・獲得免疫）について理解する。 ・免疫疾患と免疫を利用した医療について理解する。 	<p>定期試験・授業態度（意欲・態度・発言など）・提出物・小テスト等で評価</p> <p>生態系の内容について調べ、パワーポイントを使ってプレゼンテーションを行い、総合的に評価する。</p>
1	植生の多様性と遷移	<ul style="list-style-type: none"> ・植生とその環境について理解する。 ・森林の構造と光環境について学ぶ。 ・陰生植物と陽生植物について理解する。 ・遷移（一次遷移、二次遷移）について理解する。 ・世界のバイオーム、日本のバイオームについて理解する。 ・水平分布と垂直分布について学ぶ。 	
2	バイオームとその分布	<ul style="list-style-type: none"> ・生態系の成り立ちについて学ぶ。 ・生態系を流れるエネルギーについて理解する。 ・栄養段階と生態ピラミッドについて理解する。 ・炭素と窒素の循環について理解する。 ・生態系の物質収支について理解する。 ・生態系のバランスと保全について理解する。 ・生物の多様性保全の重要性について学ぶ。 	
3	生態系とその保全		

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合があります。

教科名	科目名	単位数	年・組
保健体育	体育	2	1年 全クラス

使用教科書	副教材
アクティブスポーツ (大修館書店)	健康手帳 (大修館書店)

1. 学習の目標

各種の基本動作を習得し、基礎体力の向上をはかる。また、安全と事故防止に注意し、互いに協力し合って練習・競技・ゲームができるようにする。自分の健康・体力に関心を持ち、進んで運動する習慣を養い、生涯にわたって運動に親しむ基礎をつくる。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
各種の特性に関心を持ち、互いに協力しながら健康・安全に留意して課題や練習に取り組むことができる。	能力に適した課題の課題を指して練習の仕方を工夫することが出来る。	各種の特性に応じた基礎的な技能を身に付けることができる。	各種の特性や学び方、合理的な練習法・競技・審判の方法を理解している。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4 5 6 7	○体づくり運動 ○集団行動 ○スポーツテスト	<ul style="list-style-type: none"> ・整列、列の増減、行進、方向転換、ラジオ体操 (動画配信) ・50m走、持久走、ハンドボール投げ、立ち幅跳び、握力長座体前屈、反復横跳び、上体おこし、 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動課題、ラジオ体操第一 ・出席状況、行動観察 ・記録測定、 ・出席状況、行動観察
2	9 10 11	○武道・ダンス (選択別) ・柔道 ・剣道 ・ダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・剣道 礼法 基本動作 (姿勢、組み方、進退動作、くずし、体さばき、受け身) 打ち込み、応用動作、試合 ・柔道 礼法 基本動作 (姿勢、組み方、進退動作、くずし、体さばき、受け身) 約束練習・試合 ・ダンス (創作ダンス) 課題ダンス 基本ステップ・表現方法 モチーフ作成・小作品づくり 創作ダンス作成・発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・剣道 礼法の理解と習得 技術習得 (素振り、面打ち) 出席状況、行動観察 ・柔道 礼法の理解と習得 技能習得 (受け身など) 出席状況、行動観察 ・ダンス 課題ダンス発表 小作品発表 創作ダンス発表 (表現力) 出席状況、行動観察

	12	○陸上競技 ・長距離走	○持久走 3学期の導入（ジョギング・長距離走）	・出席状況
3	1	○陸上競技 ・長距離走	○持久走 ・持久走（2～6 Km程度） ・距離に慣れる	○持久走 ・2～6 Kmのタイム計測 ・マラソン大会の参加、順位結果 ・出席状況、行動観察
	2	○球技（選択制） ・バドミントン ・タッチラグビー ・フットサル	・バドミントン シングルス、ダブルスのコンビネーション等 簡易ゲーム、試合 ・タッチラグビー 個人技能（ハンドリング、パス、ドリブル、シュート） 集団技能（2対1、3対2） 試合	・バドミントン 出席状況、行動観察 フォアハンドの正確さ ルール及び試合の理解 ・タッチラグビー パス・キックの正確さ・ 速さ 試合及びルールの理解 出席状況、行動観察
	3		・フットサル 個人技能（パス、シュート、ドリブル） 集団技能（3対3、4対4） 試合	・フットサル パスとシュートの正確さ ドリブル・集団技能等 試合及びルールの理解 出席状況、行動観察

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
保健体育	保健	1	1年 全クラス

使用教科書	副教材
「現代高等保健体育」 (大修館書店)	なし

1. 学習の目標

「健康」はいかに自分らしく、よりよく充実した生活を送るための重要な土台となる。健康を保持増進するために教育面、環境面の支援を組み合わせさせておこなうヘルスプロモーションが重要なことを理解する。また、実生活と照らし合わせながら学び、生涯を通じて、健康を自ら考え、適切に意志決定、行動選択ができるようにする。「一人一人がたった一回限りの貴重な人生を今生きている」ということを理解し、自分や他人の生命や生活を心から尊重し、それぞれの幸せを協力して実現しようとする態度を身につける。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
健康・安全に関心を持つことができる。真摯な姿勢で授業にのぞみ、ノートを取り自らまとめる事ができる。	学習内容に対して常に疑問を持ち、日常生活に照らし合わせ自ら考え選択することができる。	積極的に質問や発言をすることができる。また自分やクラスメイトの意見を尊重して保健に向き合うことができる。	保健を身近な問題としてとらえ、正しい知識を持ち、実践することができる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	1 単元 現代社会と健康 1 私たちの健康のすがた 2 健康のとらえ方	<ul style="list-style-type: none"> 健康問題の移り変わりや健康水準の向上について理解する。 健康についての考え方や成立要因について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 動画配信 提出物等 授業態度 学期末試験
	5	3 健康と意志決定・行動選択 4 健康に関する環境づくり 5 生活習慣病とその予防	<ul style="list-style-type: none"> 意志決定行動選択を健康問題と関連させて理解し影響を与える要因を理解する。 ヘルスプロモーションに基づき、個人の健康を向上させるための社会的支援のしくみを理解する。 生活習慣病と日常生活との関連性を学び、その予防法を理解する。 	
	6	6 食事と健康 7 運動と健康 8 休養・睡眠と健康 9 喫煙と健康	<ul style="list-style-type: none"> 食事と健康の関連性を知り、健康的な食生活を理解する。 運動と健康の関連性を知り、健康維持のための運動の仕方等を理解する。 休養と睡眠が心身の疲労回復とどのように関わっているか理解する。 喫煙が及ぼす健康・社会的問題を理解する。 	
	7	10 飲酒と健康	<ul style="list-style-type: none"> 飲酒が及ぼす健康・社会的問題を理解する。 	
2	9	11 1 薬物乱用と健康 12 2 現代の感染症 13 3 感染症の予防	<ul style="list-style-type: none"> 薬物乱用が及ぼす健康・社会的問題を理解する。 現在の感染症問題の特徴を理解する。 現在問題となっている感染症への対策を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 提出物等 授業態度 学期末試験
	10	14 4 性感染症・エイズとその予防 15 5 欲求と適応機制	<ul style="list-style-type: none"> エイズ等の性感染症の基礎的な知識とその予防法を理解する。 欲求の生じる過程とその種類、欲求不満から生じる適応機制について理解する。 	
	11	16 6 心身の相関とストレス 17 7 ストレスへの対処	<ul style="list-style-type: none"> 心と体の動きが相互に影響し合う関係を理解し、具体例を挙げて説明できるようにする。 ストレスに適切に対処できるようにその方法を理解する。 	
	12	18 8 心の健康と自己実現	<ul style="list-style-type: none"> 自己実現とは何かを知り、達成する過程・条件を学びつつ、自己実現と健康とのかかわりを理解する。 	

3	1	1 9 交通事故の現状と要因 2 0 交通社会における運転者の資質と責任	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における交通事故の現状を理解し、交通事故を引き起こす要因についても理解する。 ・安全な運転のために運転者に必要とされるものを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物等 ・授業態度 ・学年末試験
	2	2 1 安全な交通社会づくり 2 2 応急手当の意義とその基本 2 3 心肺蘇生法	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な交通社会をつくるための方策や車両の安全対策について理解する。 ・応急手当の意義や手順を理解する。 ・心肺蘇生法の原理・基礎知識・手順を理解する。 	
	3	2 4 日常的な応急手当	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法を理解し実行できるようにする。 	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
芸術	音楽I	2	1年1～6、9、10、12～14組

使用教科書	副教材
教育芸術社 MOUSA 1	なし

1. 学習の目標

楽器や合唱、観賞を行うことで音楽的能力を伸ばすとともに、情操豊かな人間性を養う。
--

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
興味・関心を持ち、意欲的、積極的に参加している。	歌詞の内容や楽曲の背景を感じ取り、どのように表現するか考える。	自己のイメージを表現するための技能を身につける。	感性を働かせて、音楽の要素を知覚し、音楽の良さや美しさを感じ取る。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	校歌練習	高校校歌、大学校歌の歌唱練習を自宅で行う。(動画配信)	実技試験、提出物、授業中の態度で評価する。
	5	リズム練習 音楽鑑賞	「Plymouth Rock」のリズム練習を自宅で行う。(動画配信) 自宅で音楽鑑賞を行う。	
	6	リズム練習 音楽鑑賞	「Plymouth Rock」のリズム練習を行う。 DVD鑑賞を行う。	
	7	実技試験	「Plymouth Rock」の実技試験を行う。	
2	9	楽器練習 実技試験 ソルフェージュ	リコーダーの練習を行う。 リコーダーの試験を行う。 音の聴き取り練習を行う。	実技試験、提出物、授業中の態度で評価する。
	10	実技練習 実技試験 音楽鑑賞	カップスの練習を行う。 カップスの試験を行う。 DVD鑑賞を行う。	
	11	器楽練習 合唱練習	ヴァイオリンの練習を行う。 合唱コンクール課題曲・自由曲の練習を行う。	
	12	実技練習	自由演奏の練習を行う。	

3	1	合唱練習 実技練習	合唱コンクール課題曲・自由曲の練習を行う。 自由演奏の練習を行う。	実技試験、提出物、授業中の態度で評価する。
	2	合唱練習 実技練習 実技試験	合唱コンクール課題曲・自由曲の練習を行う。 自由演奏の練習を行う。 自由演奏の試験を行う。	
	3	実技試験	自由演奏の試験を行う。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
芸術	美術 I	2	1年1. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14組

使用教科書	副教材
高校生の美術 1 日本文教出版	なし

1. 学習の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化について理解を深め、豊かな情操を養う。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
主体的に表現、鑑賞に取り組む姿勢を重視します。	制作の過程を通して試行錯誤 創意工夫を積極的に行う。	表現の技能を身に付け自分らしさを創意工夫して創造的に表す。	美術作品や文化遺産などに親しみ感性や想像力を働かせて良さや美しさを理解する。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	鑑賞	肖像画と自画像 DVD鑑賞	制作に取り組む姿勢 自画像の提出 自然物のデッサン提出
	5	素描 自画像	人体の構造を理解し、鉛筆による明暗の調子で自画像を描く。プロポーションのバランスや光の方向を根気よく観察して丁寧に描く。また、自分自身と真剣に向き合い、自身の個性や人間性を表現する。	
	6	デザイン	「自然物からの平面構成」の準備として「自然物のデッサン」を描く。モチーフとなる自然物を自由に選び自画像での経験を生かしてデッサンする。	
	7	平面構成		
2	9	デザイン	1学期に描いたデッサンをもとに「自然物からの平面構成」の構想を練り、作品のアイデアスケッチと下絵を描く。ポスターカラーで色彩計画に沿った彩色を進めて作品を完成させる。	制作に取り組む姿勢 アイデアスケッチ 作品の提出 下絵の提出
	10	平面構成		
	11	粘土で作る		
12	立体の自由制作	粘土で作る立体作品の準備として各自でモチーフの検討を行い作品の構想を練り、下絵を完成させる。		
3	1	粘土で作る	下絵をもとに作品の芯棒を制作し、石粉粘土を使用してモデリングを行う。粘土による造形の他、絵の具で彩色を施したり他の素材で装飾をしたりすることもできる。思い描いた作品のイメージを立体的に表現する。	制作に取り組む姿勢 作品の提出
	2	立体の自由制作		
	3			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合があります。

※ 4月、5月は動画配信で授業を行います。

教科名	科目名	単位数	年・組
英語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	1年全クラス

使用教科書	副教材
LANDMARK English Communication I (啓林館)	LANDMARK 予習ノート (啓林館) LANDMARK リスニング CD Listening Laboratory β(数研出版) 新ユメタン1 (アルク)

1. 学習の目標

<p>日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。具体的言語活動は次の通り。</p> <p>ア. 英語を聞いて、情報や話し手の意向などを理解したり、概要や要点をとらえたりする。</p> <p>イ. 英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解したり、概要や要点をとらえたりする。</p> <p>ウ. 聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。</p> <p>エ. 聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて、整理して書く。</p>

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解する。	日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。	日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4			定期試験 授業態度 小テスト 提出物等
	5	Lesson 1 What Can Blood Type Tell Us? Lesson 2 Curry Travels around the World	・動名詞 ・不定詞 ・分詞の後置修飾 ・現在完了形	
	6	Lesson 3 School Uniforms	・関係代名詞 ・S + V + 疑問詞節 / S + V + O + 疑問詞節	
	7	Lesson 4 Gorillas and Humans	・seem の用法 ・現在完了進行形	
2	9	Lesson 5 “gr8” or great?	・It ~ that の形式主語構文 ・知覚動詞 + O + 動詞の原形 / 現在分詞	定期試験 授業態度 小テスト 提出物等
	10	Lesson 6 Biodiesel Adventure Lesson 7 Eco-tour on Yakushima	・過去完了形 ・使役動詞 + O + 動詞の原形 ・前置詞 + 関係代名詞 ・関係副詞	
	11	Lesson 8 Mariko Nagai, Super Interpreter	・関係代名詞 what ・分詞構文	
	12			
3	1	Lesson 9 Space Elevator	・仮定法過去 ・倍数表現	定期試験 授業態度 小テスト 提出物等
	2	Lesson 10 Friendship over Time	・関係代名詞の非制限用法 ・仮定法過去完了	
	3			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
英語	英語表現 I	4 (内1は英会話)	1年1組～11組

使用教科書	副教材
DUALSCOPE English Expression I (数研出版)	DUALSCOPE 27 スコープ英文法 (数研出版) DUALSCOPE スコープワーク 27 (数研出版) DUALSCOPE 総合英語 (数研出版) 英語4技能型テストへのアプローチ④(数研出版/英会話で使用) Jet Reading 1 (数研出版/朝の小テスト等で使用)

1. 学習の目標

<p>英語によるコミュニケーション(リスニング・スピーキング)を学習する。(少人数グループでの英会話も含まれる。)</p> <p>ある程度長さがあるスピーチを作成し、発表する。</p> <p>ディベートを通して、英語で自分の意見を述べる。</p> <p>英文法の学習を通じて基礎学力の定着を図る。</p>
--

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で言語活動に参加することで、他者とのコミュニケーションを図ろうと努力しているか。	異文化の考え方、表現の違いを正しく判断し、それに対して正しく反応出来るか。	日常的话题について、英語で聞いたり、読んだりして、相手が伝えようとする情報を理解し、発信することが出来るか。	英語の文法学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解しているか。

3. 学習計画および学習内容等

・英文法

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	Lesson 1～4	文の種類、文の組み立て(1)(2)、時制(1)-1	定期試験 授業態度 小テスト 提出物等
	5	Lesson 5～8	時制(1)-2、(2)、助動詞(1)	
	6 7	Lesson 9～10	助動詞(2)(3)	
2	9	Lesson 11～15, E.L. 1	動詞の態(1)(2)、不定詞(1)(2)(3)、E.L. 1 不定詞	定期試験 授業態度 小テスト 提出物等
	10	Lesson 16～18	動名詞(1)(2)、分詞(1)	
	11	Lesson 19～21	分詞(2)(3)、比較(1)	
	12	Lesson 22, E.L. 2	比較(2)、E.L. 2 比較	
3	1	Lesson 23～25	関係詞(1)～(3) E.L. 3 関係詞	定期試験 授業態度 小テスト 提出物等
	2	Lesson 26～27	仮定法(1)(2)	
	3	E.L. 4	話法 E.L. 5以降 否定、強調・倒置・省略などの表現、無生物主語・名詞中心の表現 については高校2年次に扱う	

・英会話

学期	学習項目	学習内容	評価方法
1	Health, Body, Direction	様々な場面での説明や質問に対する応答	面接試験
2	Show and Tell	スピーチの作成	スピーチ発表
3	Debate	グループに分かれてディベートの準備・資料集め	ディベート発表

*英語4技能型テストへのアプローチ④(数研出版)は随時使用する。

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
英語	英語表現 I	4 (内1は英会話)	1年12組～14組

使用教科書	副教材
DUALSCOPE English Expression I (数研出版)	DUALSCOPE 27 スコープ英文法 (数研出版) DUALSCOPE スコープワーク 27 (数研出版) DUALSCOPE 総合英語 (数研出版) 英語4技能型テストへのアプローチ①(数研出版/英会話で使用) Jet Reading 2 (数研出版/朝の小テスト等で使用)

1. 学習の目標

<p>英語によるコミュニケーション(リスニング・スピーキング)を学習する。(少人数グループでの英会話も含まれる。)</p> <p>ある程度長さがあるスピーチを作成し、発表する。</p> <p>ディベートを通して、英語で自分の意見を述べる。</p> <p>英文法の学習を通じて基礎学力の定着を図り、英文解釈を行い受験に向けた対策を早期に開始する。</p>
--

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で言語活動に参加することで、他者とのコミュニケーションを図ろうと努力しているか。	異文化の考え方、表現の違いを正しく判断し、それに対して正しく反応出来るか。	日常的な話題について、英語で聞いたり、読んだりして、相手が伝えようとする情報を理解し、発信することが出来るか。	英語の文法学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解しているか。

3. 学習計画および学習内容等

・英文法

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	Lesson 1～4	文の種類、文の組み立て(1)(2), 時制(1)-1	定期試験 授業態度 小テスト 提出物等
	5	Lesson 5～8	時制(1)-2, (2), 助動詞(1)	
	6 7	Lesson 9～11	助動詞(2)(3)	
2	9	Lesson 12～14	動詞の態、不定詞	定期試験 授業態度 小テスト 提出物等
	10	Lesson 15～19	不定詞、動名詞	
	11	Lesson 20～23	分詞、比較	
	12	Lesson 24, 25	比較	
3	1	Lesson 26～31	関係詞、仮定法	定期試験 授業態度 小テスト 提出物等
	2	Lesson 32～35	話法、否定、強調・倒置・省略などの表現	
	3	Lesson 36	無生物主語・名詞中心の表現	

・英会話

学期	学習項目	学習内容	評価方法
1	Health, Body, Direction	様々な場面での説明や質問に対する応答	面接試験
2	Show and Tell	スピーチの作成	スピーチ発表
3	Debate	グループに分かれてディベートの準備・資料集め	ディベート発表

*英語4技能型テストへのアプローチ①(数研出版)は随時使用する。

※ 上記の内容は、進捗によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
総合的な探究の時間		1	1年全クラス

使用教科書	副教材
なし	なし

1. 学習の目標

<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p>
--

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4			Classi ポートフォリオ 振り返りアンケートへの入力
	5			
	6	水泳球技大会	本校プール・体育館等にて、中学・高校全体の水泳球技大会を行う。(4時間)	
	7			
2	9	高大連携教育	本学生物資源科学部、法学部、経済学部、商学部、理工学部、三軒茶屋キャンパス(危機管理学部・スポーツ科学部)の中から1学部を選び、講義・実習等を行うことで文系・理系コース分けや大学選び、職業を考えるきっかけにする。(6時間)	Classi ポートフォリオ 振り返りアンケートへの入力
	10			
	11	体育祭	本校NFグラウンドにて、中学・高校全体の体育祭を行う。(6時間)	
	12	日藤祭(文化祭)	クラスの催しやクラブ活動の発表・展示等を準備日も含め、3日間にかけて行う。(9時間)	
3	1	マラソン大会	こどもの国にてマラソン大会を行う。男子は6.4km、女子は4.0kmを走る。(3時間)	Classi ポートフォリオ 振り返りアンケートへの入力
	2	合唱コンクール	藤沢市民会館大ホールにて、合唱コンクールを行う。(7時間)	
	3			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。